

編 集 後 記

遂に我々の場長が決定した。

丁度鮭が浜上し出したばかりの九月二十一日、この日付で道水産部漁業制度課長であつた荒井氏が新場長として任命されたのである。

新場長は挨拶の中に『淺學菲才なので皆様の御協力の程を云々』と語つておられますが、どうして荒井場長こそ我々の場長としてきつとこの多難な孵化場の現状を切り抜き得る人であることを確信する。我々も亦大いに孵化事業のため努力しなければならぬところである。

今年はまだ十勝川で貳萬もの鮭を

捕獲しており孵化事業の効果が目前に現はれたもので、今年の豊漁はうたがえないものがあり喜ばしい限りである。

鮭の訪れと共に密漁防止の心配が又一つ増えて来る。今年は今月の十八日から道の弘報車々ひかり々號を借りて十勝川沿線を一週間に亘つて密漁防止運動のため宣傳事業に乗り出すことになつた。きつと密漁が絶滅されるであらう事を祈りつゝ。

田村氏の『魚の一生』は愈々面白味を加えて來た。魚類の生活狀況が手に取るように伺え、魚の世界の神秘を知る尤もよいものではないかと思ふ。

暫く休載していた事業場巡りも前號で渡島を終り今號から千歳に移つた。次號は勇拂になるので大いに投稿あらん事を御希望致します。

(S)



昭和廿六年十月十日發行
毎月十日刊行

札幌市外中の島

發行所 北海道水産孵化場

電話③一〇四三九番

魚と卵編集室

